

ペア学習の意義

大塚朝美

スピーキングの授業に限らず、ペアワークやグループワークを取り入れることは生徒同士の interaction を活発にし、協働学習につながる「よい方法」の 1 つとして認識されている。担当するリーディングの授業においても、学期に 2 度あるプレゼンテーションは個人で行う発表とペア（クラスの人数が奇数の場合は 3 人グループもあり）での発表を課題としている。個人の発表では各自が持つ iPad を使用して発表することになっているが、ペアで行う発表はあえてポスター発表というアナログな形をとることになっている。

ペアで発表する課題を出すと必ず上がる声は、相手と予定を合わせて打ち合わせをするのが大変だ、自分のペースで準備ができず不便だ、相手の子がきちんと分担してくれない、などであるが、いずれも学生にとっては課題の発表をすること以外に付随する人間関係の「面倒なこと」である。これらの不満が出ることを承知であえて毎回ペア発表を取り入れるのは、やはり自分一人ではなく共同で作業をすることで得られる何かを体験してほしい、また相手が存在することでより効率の良い準備方法を話し合い、課題発表につなげる過程を大事にしてほしい、という狙いがある。また、あえてポスターという媒体を利用することで、メールや電話ではなく face to face でポスターを書かなければならない状況を作り、コミュニケーションの大切さを実感してほしいという狙いもある。しかしながら、今年度の一部の学生たちがとった行動はこちらの意図を反映しないものであった。授業内でペア同士の打ち合わせ時間をとっていた時、数組のペアがポスターに使用する大きな模造紙を半分に切り始めたのである。彼女たちは必要最小限の打ち合わせをし、発表の担当箇所を決め、半分ずつにした模造紙を持ち帰って別々にポスターを作成することを選択した。ある意味非常に効率の良い方法ではあるが、裏を返せば各自の好きな時間に自由に準備をする個人発表と変わりがない。ポスター作成のみ各自で行い、後からポスターを貼り合わせて 1 枚のポスターを作成し、二人が連携した発表ができればそれで準備は OK であるが、何とも言えない味気無さを感じた。

ペア活動がいつも上手く機能するとは限らない。それでも一人学習では決して気づくことのできない学びを他人との共同作業で得られるのでは、と考える。あえてポスターを使った発表をする意義を次の学期ではあらためて説明し、学生たちの積極的な取り組みに期待したい。

(大塚朝美 専任講師／教員養成センター)